

2. 調査結果の分析

【小学校】

○時間が足りなかったという割合が国語、算数ともに依然、多い。

→A, B共に、こうした対外的な問題形式に慣れていない。

→しかし、昨年度に比べると、やや減少している。

国語A 57.5% (やや46.2、全く11.3)

国語B 51.6% (やや36.0、全く15.6)

算数A 28.0% (やや22.6、全く5.4)

算数B 37.8% (やや27.4、全く10.4)

【平成20年度】

国語A 67.0% (やや55.2、全く12.0)

国語B 59.9% (やや43.0、全く16.9)

算数A 39.0% (やや30.3、全く8.7)

算数B 48.8% (やや35.2、全く13.6)

【平成19年度】

国語A 33.0% (やや26.9、全く6.1)

国語B 40.6% (やや27.9、全く12.7)

算数A 18.6% (やや13.2、全く5.4)

算数B 45.0% (やや30.1、全く14.9)

○調査結果は、学年だけにとどめず、自校の児童の弱点を見つけ、どう補っていくかを学校全体で共有するなどして、指導の改善に取り組んでもらいたい。

【小学校国語A 課題と考えられる問題】

① 漢字を書く 短答式

1ニ (1)「病院」 正答率51.2% (全国と25P差)

1ニ (3)「賛成」 正答率55.3% (全国と23P差)

漢字を使用する機会を増やし、語彙力を高める指導が必要である。

② ローマ字で書く、ローマ字を読む 短答式

2 (2) たべものをローマ字に 正答率40.6% (全国と5P差)

2 (3) happa の読み 正答率45.1% (全国と6P差)

ローマ字の規則性を着実に押さえさせると共に、様々な学習や生活の中でローマ字を使う機会を増やしていく必要がある。

③ 司会の進め方の良いところを説明する 記述式

7 正答率44.5% (全国と23P差)、無解答率33.2%

日常から様々な課題に応じて司会をする機会を多くの児童に保障したり、話し合いの目的や流れに応じて適切に意見を発表したり聞き取ったりすることができるよう指導することが重要である。

④ 接続語を使って一文を二分に分けて書く 短答式

8 正答率7.9% (全国と7P差)、無解答率32.7%

昨年度も正答率が低く全国との差が大きかった設問である。

児童は文章を書くとき、「～で」などの接続助詞を多用することが多い。日常から自分が伝えたいことを明確にして、接続語や文末の表現を工夫しながら簡潔に伝えることができるよう指導を工夫する必要がある。

⑤ 毛筆の下書きについて書き直す内容を書く 短答式

9 正答率19.0% (全国と10P差)、無解答率51.5% (全国と25P差)

無回答率が高い。全国と比しても高い。

書写の指導において、文字の大きさや配列に対する意識を高める指導が必要である。

【小学校国語B 課題と考えられる問題】

① 調査報告文を書く 目的に応じて必要な事柄を整理したり、まとめの文を書く。

1一 メモの内容を一つ書く 正答率6.3% (全国と5P差)、無解答率38.5%、短答式

1二 まとめの文を書く 正答率6.8% (全国と11P差)、無解答率21.3%、記述式

正答率も低く、無解答率も高い。

全体を見通して書く事柄を整理する指導、文章と資料を関係づけて書く指導を日常的に行っていく必要がある。

② 表をもとに話し合う 自分の立場や意図を明確にして話し合いに参加する。

2二 条件に合わせて意見発表の内容を書く

正答率20.4%、無解答率26.7%、記述式

立場や意図を明確にしながら自分の考えを形成させる指導を重視すると共に、資料や数値を根拠にして自分の考えを述べ合う機会を保障していくことが重要である。

③ 自分の考えをまとめるために読む

目的に応じて効果的な読み方を工夫し、自分の考えをまとめる。

3一 正答率45.2% (全国と11P差)、短答式

3二 (1) 正答率49.8% (全国と12P差)、無解答率22.4%、記述式

3二 (2) 正答率40.5% (全国と10P差)、無解答率28.3%、記述式

文章の構成や叙述の仕方等に着目して読ませる指導が大切である。

また、効果的な読み方には、速読、摘読、多読などがあるが、多様な読み方の中から、目的に応じた効果的な読み方を工夫させる指導を行う必要がある。

また、本を読んで感じたこと、思ったこと、考えたことなどを発表し合う機会をつくることも重要である。

④ 図を使って説明する 目的や意図が伝わるように情報を取り出す

4二 ア 正答率48.6% (全国と9P差)、無解答率22.9%、記述式

事物や事柄といった静的なものの説明だけでなく、手中や方法といった動的なものを説明する機会も増やす必要がある。そのためには、日常的に言語活動を多様に経験させていく必要がある。

【小学校算数A 課題と考えられる問題】

① 四捨五入 選択式

2 (3) 「74291の千の位までの概数を選ぶ」正答率57.6% (全国と18P差)

昨年度も正答率の低かった設問である。

指導にかかる時間が不足していないか、児童の定着が良くないにもかかわらず補充的対応がなされていないのか、検討が必要である。

② 偶数の意味理解 選択式

2 (4) 「整数の中から偶数を選ぶ」正答率50.1% (全国と22P差)

0は偶数のひとつであるが、選択肢の中に0が含まれていたため、これを選ばなかった生徒が多かったことが推測される。偶数に限らず、事項の定義を正しく説明し理解させる指導が求められる。

③ 四角形の内角の和 短答式

5 (1) 「2つの三角形の内角の和の合計を式で表す」正答率56.7% (全国と11P差)

無解答率22.3%

多角形の内角の和を求める際の豊かな算数的(数学的)活動を展開していく必要がある。帰納的方法、演繹的方法の双方の思考法をいろいろな場面で取り入れるようにもしたい。

④ 三角形の面積 短答式

6 「方眼紙上にある三角形の面積の式を書く」正答率48.3% (全国と22P差)

無解答率19.6%

三角形の底辺と高さの取り方について、多様なケースをくぐる中で、理解をはかっていきたい。また、本設問では、長方形の面積から2つの直角三角形を除いて求積する方法もあり得る。日常の算数的(数学的)活動が、やはり重視されよう。

⑤ 資料の分類整理 短答式

8 「資料を2つの観点から分類し表をうめる」正答率50.3% (全国と18P差)

目的に応じて資料を分類整理したり、特徴を調べる作業を児童の実生活の諸課題にふれるような形でとりあげ、興味・関心を引き上げながら授業を構成していく工夫なども求められる。

【小学校算数B 課題と考えられる問題】

① 事象の観察と論理的な考察

1 (3) 「示された解決方法とは別の解決方法を説明する」正答率26.7%、記述式

他者の解決方法を基に、見方を変えて新しい解決方法を考え、数、言葉、式を用いて説明する活動を積極的に取り入れていく必要がある。

② 情報の選択と判断の根拠の説明

2 「事象を数理的にとらえ選択・整理したり判断・説明する」

(1) 正答率37.1%、短答式

(2) 正答率47.3%、短答式

(3) 正答率33.3%、記述式

条件を考慮して筋道を立てて考えられるようにするために、指導に際し、問題場面の情報を整理し、図にして表したり必要な条件を書き出したりする活動を取り入れる工夫が必要である。また、自分の判断が正しいものであることを他者に説明する場面を意図的に説明していく必要がある。

③ 資料の数学的な解釈と判断根拠の説明 記述式

5 (3) 「グラフからある事象の占める割合を比較して説明する」正答率15.6%、記述式

判断理由の説明の際には、根拠として何を述べれば十分な説明となるかを考慮することが大切である。指導に際しては、割合、比較量、基準量の関係を明らかにして説明することの必要性を理解させることが重要である。

【中学校】

○時間が足りないと感じた生徒

→小学校と比較すれば時間不足を感じている生徒は少ない。また、昨年度の比べても、時間不足の生徒は減少している。

国語A 4.4% (やや 3.3、全く1.1)

国語B 7.5% (やや 6.0、全く1.5)

数学A 7.5% (やや 5.5、全く2.0)

数学B 13.2% (やや10.8、全く2.4)

【20年度】

国語A 13.0% (やや 9.6、全く3.4)

国語B 34.6% (やや25.0、全く9.6)

数学A 12.8% (やや 9.1、全く3.7)

数学B 27.2% (やや18.1、全く9.1)

【19年度】

国語A 3.5% (やや2.6、全く0.9)

国語B 11.7% (やや10.1、全く1.6)

数学A 7.5% (やや 5.2、全く2.3)

数学B 19.2% (やや14.3、全く4.9)

【中学校国語A 課題と考えられる問題】

① 鑑賞文を書く

- 1一 「主語に対応させて述語を適切に書く」正答率41.8%（全国と8P差）、短答式
推敲の指導に際しては、自分で読み直すだけではなく、ペアやグループで読み合うことなども取り入れ、誤りを指摘し合ったり、表現の仕方を学び合ったりして、自分の表現に役立てることも効果的である。

② 短歌を読む

- 7一 「短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむ」正答率27.9%、選択式
短歌や俳句などを詠む際、作者が対面している事実、状況をまず正確にとらえることが、作者の気づきや感動について考えていくうえで有効であることをおさえた指導を工夫したい。

③ 漢字を書く 短答式

- 83 「燃料をオギナウ」正答率44.7%（全国と9P差）、無解答率28.3%、短答式
「漢字の書き」は昨年度も課題を残している。小学校においても同様の傾向がある。定着をはかる指導の工夫が求められる。

④ 言語事項等 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。選択式

- 8三ア 正答率41.3%（全国と7P差）
イ 正答率59.3%（全国と12P差）
カ 正答率38.5%（全国と34P差）→来賓のしゆくじ 「辞」を選択させる
漢字一字の読み書きだけではなく、語句としての理解、文脈に即した使用が大切である。実際に、漢字を読んだり書いたりする機会を増やし、習熟をはかる指導が必要である。

⑤ 言語事項等

- 8七 「『善後策を講じる』の意味を辞書の記述をもとに説明する」
正答率57.7%（全国と9P差）、無解答率（26.1%）、短答式
国語辞典には語の意味だけではなく、表記の仕方や用例等のさまざまな情報が載せられている。国語辞典を日常から積極的に使用し、よりふさわしい表現、説明の方法を磨いていく指導が求められる。

【中学校国語B 課題と考えられる問題】

- ① 情報を読む 資料に書かれている工夫点をつかみ、自分の表現として記述する。記述式。

1 三ア 正答率44.0% (全国と15P差)

資料を読む際には、作り手の意図や目的と表現の工夫との関係について考えることが重要である。表現の工夫に目を向けさせ、学んだことをレポートや発表用の資料作りなど自分の表現活動に生かしていくようにさせることが大切であろう。

- ② 情報を整理する

2 二 説明的な文章から必要な情報を読み取り簡潔にまとめて書く。

正答率59.7%、(全国と5P差)、無解答率20.6%、記述式。

2 三 文章と補助資料とのかかわりを理解する。

正答率55.5% (全国と9P差)、無解答率25.2%、短答式。

各教科の学習や日常生活において読む文章の中には、図や表などが用いられることも少なくない。図やグラフ、表などから読み取ったことを言葉でわかりやすく説明する学習を国語の授業として行っていくことが必要である。

- ③ 詩を味わう 詩の表現の仕方に注意して内容をとらえる。

3 二 正答率57.3% (全国と8P差)

詩の内容や構成、表現は豊かで奥深い。自らの気づきを観点ごとに大別して整理する学習活動が、詩の理解をすすめるうえでも、自分の感想や意見を人に伝えるうえでも有効である。

【中学校数学A 課題と考えられる問題】

① 一元一次方程式

- 3 (2) 正答率 41.4% (全国と 11P 差)、無解答率 23.9%、短答式
(3) 正答率 23.5% (全国と 11P 差)、無解答率 39.6%、短答式

② 平面図形 点対称と線対称

- 4 (1) 正答率 39.8% (全国と 13P 差)、選択式
(2) 正答率 34.7% (全国と 10P 差)、選択式

③ 平面図形 おうぎ形の面積

- 5 (4) 正答率 46.2% (全国と 10P 差)、選択式

④ 平面図形 三角形の内角の和が 180° であることの正しい証明文を選択する。

- 8 正答率 24.8% (全国と 4P 差)、選択式

⑤ 比例 比例定数の意味理解

- 9 (1) 正答率 46.0% (全国と 7P 差)、選択式

⑥ 反比例 反比例の意味の理解。

- 10 (1) 正答率 28.3% (全国と 11P 差)、選択式
(2) 正答率 23.0% (全国と 11P 差)、短答式

⑦ 一次関数 一次関数のグラフ、式の理解

- 11 (1) 正答率 49.1%、(全国と 11P 差)、選択式
(2) 正答率 44.0% (全国と 11P 差)、短答式
(3) 正答率 42.0% (全国と 10P 差)、選択式

⑧ 二元一次方程式と座標の意味理解

- 12 正答率 29.2% (全国と 6P 差)、選択式

上記の設問はいずれも、学習指導要領に示された内容の中でも、きわめて基本的な内容である。

授業の成立状況、生徒の授業への向かい方等の学習を成立させる基盤となるべき体制を再構築する必要がある。また、基本的な事項が理解していない生徒に対する補充的な学習機会の設定や家庭学習の定着化、そのやり方等、学校全体をあげて、臨む必要がある。

【中学校数学B 課題と考えられる問題】

- ① 事象の数学的な解釈と判断 対称な図形の特徴を説明する。
[1] (2) 正答率35.8% (全国と11P差)、記述式
情報の読み取り 数学的な表現で説明する。記述式
- ② 事柄の中の数量関係の説明 事柄が成り立つ理由を説明する。
[2] (2) 正答率28.5% (全国と12P差)、無解答率28.5%、記述式
- ③ 事象の数学的な解釈と問題解決の方法 問題解決の方法を説明する。
[3] (3) 正答率10.6% (全国と9P差)、無解答率64.6%、記述式
- ④ 図形の性質の証明 方針に基づいて証明文を書く。
[4] (1) 正答率34.1% (全国と7P差)、無解答率35.4%、記述式
- ⑤ 情報の選択と判断 事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明する。
[5] (2) 正答率40.9% (全国と15P差)、無解答率40.5%、記述式

これらの問題は、いずれも事象の性質等を根拠を明らかにしながら、説明や証明を行うという記述式の設定である。数学Bすなわち活用の力として、新しい学習指導要領が求めている力そのものと言っても過言はない。これらの力は、増加した数学の授業時間を使って、数学的活動が豊かに行われることで、育まれることが期待されている。従って、従来の授業スタイルを繰り返している限りでは、活用力は育まれない。数学的活動の意義と意味を深く理解した上で、多様な授業方法を検討してほしい。